



安心して暮らし続けられる地域を目指し 笑顔のあふれるまちへ 「協働のまちづくり」を紹介

各地域にある17のまちづくり協議会や地域の団体、地域おこし協力隊、集落支援員などが、「地域の元気づくり」として市民協働のまちづくりや地域活性化に取り組んでいます。

また市では今年度、総務省の「関係人口創出・拡大事業」モデル事業（※1）の採択を受けた事業にも取り組んでいます。

本号では、各地域の取り組みについてご紹介します。

■村上地区（上海府）

上海府地区では、有志によるまちづくりグループ「上海府地区向上委員会」が結成されました。「オレモオメモ」には「わたし（＝地域の人）も、あなた（＝地域外の人）も一緒に地域を創っていく人ですよ」という意味が込められており、この名のとおり、今年度は地域内外の参加者が一緒に、まちあるきや空き家掃除を行うイベントを開催しました。上海府を知っている人も通り過ぎるだけで訪れたことはないという人が多く、参加者は地域を知る貴重な1日になったようです。

今後は、整備した空き家を活用するなどして受け入れ環境を整え、さらに地域に深く関わってもらいながら、地域課題を共に考えていける活動を行っていききたいと考えています。

（※1）…観光や交流活動の参加者、ゆかりのある人や出身者など、さまざまなきっかけを入口として、その地域に多様にかかわる人々を「関係人口」といい、関係人口の創出や関係人口を活かした事業をモデル的に行う総務省のモデル事業に市として取り組んでいます。

■山北地区

まちづくり協議会と関係集落、市が連携して「百姓やってみ隊」と「学生インターシップ」の取り組みを行い、関係人口の創出・拡大を推進しています。

百姓やってみ隊では、新潟市や長岡市など、市外の参加者と山北地区内の参加者が1泊2日で年間10回ほど田畑での農作業や焼畑での赤かぶ栽培、林業体験、カジカ捕り、味噌づくりなどを行い、山北地区の自然・風土・人を感じられる活動を地域の皆さんのサポートを受けながら行っています。また、参加者が自主的に集落イベントのスタッフとして協力するなど、参加者と地域が百姓やってみ隊の活動以外で新たな関わりを持つ動きも出てきています。

学生インターシップでは、東京都・神奈川県・新潟市出身の3人の大学生が夏休みを利用して中継集落の空き家に1カ月間滞在し、農村での暮らしや集落の奉納相撲の準備から当日の運営まで行い、地域の皆さんと一緒に汗をかきました。締めくくりにそこで感じた想いなどを大学生の目線でまとめ、冊子「仲継」を作成しました。

参加した大学生はインターン終了後も幾度となく集落を訪れ、「ただいま」「おかえり」と笑顔で集落の皆さんとあいさつを交わしています。

山北地区



▲冊子「仲継」の中に掲載する記事について取材する大学生。

村上地区



▲まちあるきイベントで撮影した写真を使い、地域の魅力が詰まったフォトブックを作成しました。

神林地区



▲やわ肌ねぎを収穫する生産者の川崎さんとプロジェクト参加者。

■神林地区

道の駅神林「穂波の里」とれたて野菜市かみはやし(株)様にご協力いただき、「お母さんの知恵袋プロジェクト」を行っています。

このプロジェクトは、野菜を出荷しているお母さん方の知恵や技、地域で暮らす想いなどを知るため、畑仕事の手伝いをしたり一緒にお茶を飲んだりしながら、親密な関係をつくることを目的にスタートしました。プロジェクトは市外から4人の参加者を迎え、オリエンテーションの後、4日間で総勢9人のお母さん方と交流していただきました。参加者からは「笑顔が絶えず、今をとても楽しんでいるのが自然と伝わってきて、自分たちも元気をもらえた」とても印象的で、神林地区の人の温かさや魅力を肌で感じる事ができた」などの感想をいただきました。

これらの体験やお母さん方から聞いた知恵、技などを冊子にまとめる予定です。

むらかみファン倶楽部 メルマガ登録募集中!

定期的に村上市の地域の様子やイベント、ボランティア募集などの情報を配信しています。

【こんな人におすすめです】

- ・村上市出身または村上市にかりのある人
- ・旅行や仕事で定期的に村上市を訪れている人
- ・村上市を応援している人
- ・村上市に興味のある人など

【登録方法】

村上市ホームページ (<http://www.city.murakami.lg.jp/site/kankeijinko/mailmagazine.html>) の「メールマガジン」のサイトから登録。または、下記のQRコードを携帯電話・スマホで読み込み、必要事項を入力してください。



「ここから登録してね！」

■朝日地区

「これから先もこの地域で安心して暮らすために、今、どのようなことができるのか?」

朝日地区の「たかねまちづくり協議会」では、住民の皆さんと一緒に少子高齢化や人口減少問題について考えようと、平成30年度からあさひ互近所(ごまじ)ささえぐる隊と連携して集落座談会を開催しています。

座談会を開催した薦川集落(こまがわ)では、はじめに集落の現状を知り、その後、暮らしの中での困りごとを話し合い、その解決策を探しました。座談会を始めたころは「今は困っていない」「など、なかなか意見が出ない状況でした。そこで、質問内容を少し崩し「最近ちよつとつらくなってきたこと」に変えて尋ねると「雪下ろしや除雪ができない」「米袋など重いものが持てない」「鮭をさばけない」など、意見がたくさん聞かれました。これに対し、さまざまな解決策が発表され、それを共有することによって有意義な座談会となっていました。

今年度も薦川集落では座談会を継続して開催しています。また、新たに「猿沢地域まちづくり協議会」でも1つの集落を選定し、同様に活動していく予定です。



▶ 座談会では「こまめに雪を下ろす」「困った時に頼みやすいように近所同士のコミュニケーションを大切に」「魚がさばけないならスーパーで300円でさばいてくれるよ」「米袋は小口に分ければ運べるよ」など、さまざまな解決策が聞かれました。



▲金屋小学校児童と地域住民とで、つどい場開催の作戦会議。



金屋地区集落支援員
酒井幸子さん

集落への「目配り役」として、市と連携し集落の巡回や地域団体の活動のサポートを行っています。

■荒川地区

平成29年10月に、村上市初の集落支援員となった酒井幸子さんは、市と「あらかわ地区まちづくり協議会」と連携し、金屋地区(10集落)の住民とともに地域コミュニティの活性化を図りながら、問題解決に向けた活動を行っています。

集落区長との懇談会や地域の茶の間に向き、地域の現状についての意見交換を行い、そこから見えてきたのは、世代間の交流の場がほしいという事でした。また、金屋小学校児童からも地域のつどい場を作りたいとの提案がありました。そこで、金屋小学校を大切に思い、これまでさまざまな活動を行ってきた地域の方々と力を合わせて、平成30年度から年1回、つどい場「おらだり」を開催しています。

酒井さんは、「子どもたちの『やってみたい』ことを大人たちが知恵を出しあって実現していく場として『おらだり』は、地域コミュニティの活性化を図る有効な手段です。これからは、地域と足並みをそろえながらサポートしていきたいです」と意気込みを語っていました。

17のまちづくり協議会を紹介

- ・ 山北地区まちづくり協議会
- ・ 館腰地域まちづくり協議会
- ・ 三面地域まちづくり協議会
- ・ たかねまちづくり協議会
- ・ 猿沢地域まちづくり協議会
- ・ 塩野町地域まちづくり協議会
- ・ 村上地域まちづくり協議会
- ・ 岩船まちづくり協議会
- ・ 活気あふれる街
瀬波まちづくり推進協議会
- ・ 山辺里地区まちづくり協議会
- ・ 上海府地区町づくり推進委員会
- ・ 神納地域まちづくり協議会
- ・ 神納東地域まちづくり協議会
- ・ 平林地域まちづくり協議会
- ・ 砂山地域まちづくり協議会
- ・ 西神納地域まちづくり協議会
- ・ あらかわ地区まちづくり協議会



各地域の足元にある資源などを活かし、誰もが主役となって地域の元気づくりを進めるため、平成23年度末、市内に17のまちづくり協議会が設立され、これまで住民と行政が連携して「協働のまちづくり」に取り組んできました。

各まちづくり協議会では、皆さんの熱意と創意工夫によってそれぞれの地域に合った特色ある事業が行われ、集落・町内の範囲を越えた地域の信頼関係は強まり、地域の元気づくりが一步一步着実に進んでいます。

今、日本全体で少子高齢化と人口減少が進んでおり、「地域や集落活動の担い手が少なくなってきた」「伝統あるお祭りが将来も続けられるのだろうか…」「集落の共同作業に人が集まらなくなり、負担が重くなってきた…」などの不安を、皆さんも感じたことがあるのではないのでしょうか。まちづくり協議会の中には、このような地域課題に目を向け、取り組みを始めるという動きが出てきており、関係人口づくりが課題解決の一助となるよう、市として今後も研究していきます。

まちづくり協議会や地域の団体、そして市民誰もが参画して進めていく「協働のまちづくり」について、これからもご理解とご協力、ご参加をお願いいたします。

●問い合わせ 自治振興課自治振興室 ☎53-2111 (内線5110)



市ホームページ
「市民協働のまちづくり」
はこちらへ

